

奈良県の民俗芸能 —奈良県民俗芸能緊急調査報告書—の刊行について

平成 23～25 年度の 3 カ年で実施してきた奈良県民俗芸能緊急調査（民俗文化財）の成果物として『奈良県の民俗芸能—奈良県民俗芸能緊急調査報告書—』を刊行いたしました。

調査は文化庁が進める民俗文化財調査に関する国庫補助事業として実施されたものです。奈良県全域における民俗芸能のまとまった報告書としてはじめてのものです。

（調査目的）

民俗芸能は今日の急激な社会的環境の変化によってその形態が変貌し、消滅の危機にさらされています。奈良県民俗芸能緊急調査は県内に広く分布する民俗芸能の全体像を把握し、文化財保護の立場から主要なものについて現況を詳細に調査し、記録を保護施策立案の基礎資料とし、あわせて地域文化の高揚に資することを目的としたものです。

（調査体制）

調査体制としては、委員長に岩井宏實氏（帝塚山大学名誉教授、国立歴史民俗博物館名誉教授、元奈良県文化財保護審議会委員）、副委員長に植木行宣氏（元京都学園大学教授、元三重県文化財保護審議会委員）をはじめとした 6 人の専門家からなる調査委員会を設置し、市町村教育委員会の推薦等による 43 名の基礎調査員、調査委員会の推薦による民俗学等を専門とする研究者からなる 70 名の詳細調査員を委嘱しました。

（報告書の内容）

平成 23 年度には県内全域で基礎調査員による約 200 件の基礎調査を実施し、165 ヶ所の基礎調査票一覧を作成しました。ここから、平成 24、25 年度には重要なもの 79 件を選んで詳細調査員による詳細調査を実施しました。各分野のまとめは「各論」で、さらに全体のまとめは「総論」でおこない、25 年度に全 860 頁の報告書を刊行しました。

なお、「詳細調査報告」はフィールドワーク（民俗調査）による現状記録の報告を基本とし、現在の芸能や行事を取り巻く民俗誌的コンテクストを描くことで厚い記述を目指しました。さらに戦後及び高度経済成長期から近年までの歴史的変遷に留意すると同時に、古文書の調査・翻刻を積極的に行い、資料性・記録性の確保を目指しました。一方、「各論」及び「総論」では歴史的・分布なパースペクティブから奈良県の民俗芸能の解明と位置づけを目指しました。

（閲覧可能場所）

国立国会図書館、奈良県立図書情報館、奈良県内市町村教育委員会又は市町村図書館等で閲覧可能ですが、図書館でまだ登録・架蔵されていない場合は奈良県教育委員会文化財保存課でも閲覧いただけます。

（主な調査先）

1. 御田（10 件）…押熊・八幡神社の御田祭
2. 翁舞・田楽・相撲（20 件）…大保・八坂神社のサンカクトビとヨコトビ、北野・天神社の豊田楽
3. 風流・盆踊り（23 件）…大柳生の太鼓踊り、西川の盆踊りと大踊り
4. 念仏芸能（7 件）…東安堵の六斎念仏
5. 神楽（6 件）…霊安寺・御霊神社のお神楽と御湯
6. 獅子舞（9 件）…室生・龍穴神社の獅子舞、曾爾（今井・伊賀見・長野）の獅子舞
7. その他（4 件）…大和高田のだんじり、矢田寺の練供養

